

2016年（平成28年）

9月23日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

9/8～9/14のNYMEX・WTIは、43.58～47.62ドルの範囲で、値下がり気味に推移した。

9月15日は、米メキシコ湾から東部への製品パイプライン事故による稼働再開の遅延見通し、インディアナ州の製油所トラブルによる製品生産半減の見通しなどで、ガソリン市況が上昇、これに連動する形で、WTIも3日振りに反発した。10月限は前日比0.33ドル高の43.91ドルで終了した。

週末16日は、ロイターによる8月のイラン原油輸出量が211万バレルと前年同月比倍増との報道、ナイジェリア・リビアの産油量増加の兆候、さらにベーカー・ヒューズによる米国内稼働リグ数が416基と前週比2基増加したとの発表等を背景に、1カ月振りの安値となった。10月限は、前日比0.88安の43.03ドルとなった。

週明け19日は、ベネズエラのマドウロ大統領の市場安定に向け産油国が合意に近づきつつあるとの発言など、産油国協調への期待から反発した。10月限の終値は前日比0.27ドル高の43.30ドルとなった。

20日は、26～28日の産油国会合への期待感・悲観論が交錯したが、OPECのパーキンズ事務局長による1年間の増産凍結合意の可能性との発言を契機に、小幅続伸した。この日納会の10月限の終値は前日比0.14ドル高の43.44ドル、11月限は0.19ドル高の44.05ドルだった。

21日は、EIAが発表した米国週間在庫統計で、原油在庫が市場予想を上回り減少したことから、供給過剰感が後退し、3日続騰した。この日から中心限月となった11月限は前日比1.29ドル高の45.34ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10

月渡し)は、前週43.40～45.70ドルの範囲で推移した。15日は42.50ドル、16日は42.80ドル、20日は42.30ドル、21日は43.30ドルと狭い範囲で小刻みに推移した。

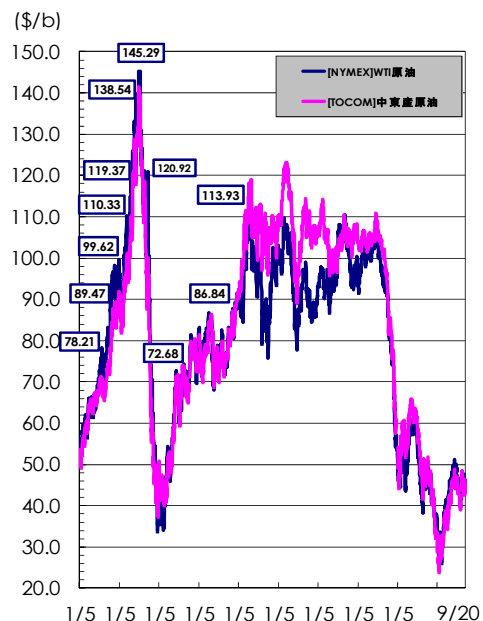
為替は、前週101.64～102.83円の範囲で103円台を中心に推移した。15日は102.50円、16日は102.00円、20日は101.95円、21日は101.82円と小刻みに推移した。

財務省が21日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、28,864円/klとなり、前旬を38円下回った。ドル建てでは45.24ドルで前旬比0.51ドル高。為替レートは1ドル/101.44円。また同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、8月の原油輸入平均CIF価格は、29,492円/klとなり、前月を1,444円下回った。ドル建てでは45.37ドルで前月比2.34ドル安。為替レートは1ドル/103.35円。

主要元売会社の9月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0円の値下がりから据え置きだった。原油は値上がりしたが、為替の円高が相殺する形で、原油コストはほぼ横ばいだった。

そのような中で、9月20日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がりの122.9円、軽油は横ばいの102.5円、灯油も横ばいの63.9円だった。ガソリンは5週振りの値下がり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は4週連続の横ばいだった。この週(9月第3週)の原油コストは横ばいで、元売の卸価格は全社とも据え置きだった。

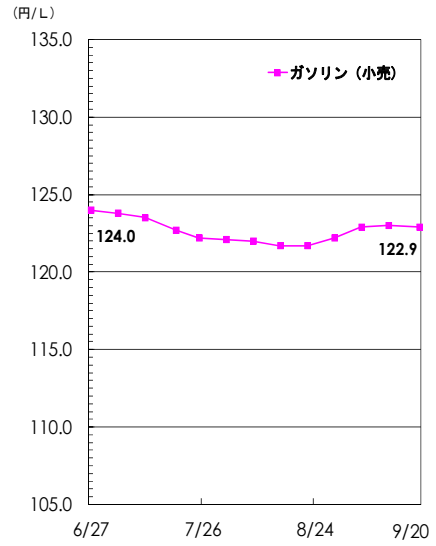
原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	9/11 ~ 9/17	3,480	▼ -100	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.9	▼ -2.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/17	14,813	▲ 378	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	9/20	42.97	▼ -1.04	▼ -3.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	9/19	43.30	▼ -2.99	▼ -3.4
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	8月下旬	45.24	▲ 0.51	▼ -13.80
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	28,864	▼ -38	▼ -17,239
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	101.44	▲ 1.28	▲ 22.71
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/20	102.95	▲ 0.69	▲ 18.26



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/11 ~ 9/17	984 ▼ -48 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	956 ▼ -17 ▲	▲ -	
	輸出	"	20 ▲ 19 ▼	▼ -	
	在庫	9/17	1,704 ▲ 8 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/13 ~ 9/16	42.3 ▼ -0.2 ▼	▼ -10.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/13 ~ 9/16	41.3 ▲ 0.1 ▼	▼ -8.8
		(TOCOM/中部)	9/16	41.9 ▲ 1.1 ▼	▼ -8.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/20	122.9 ▼ -0.1 ▼	▼ -12.3	

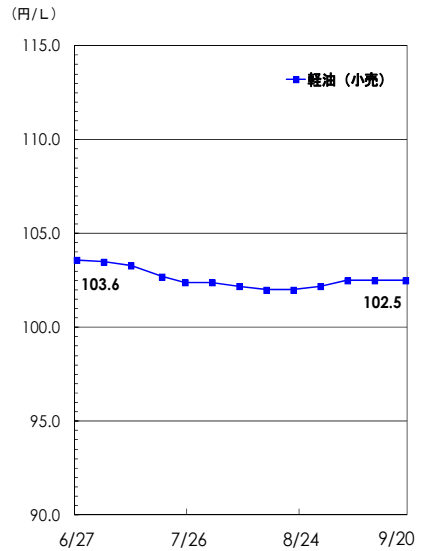
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

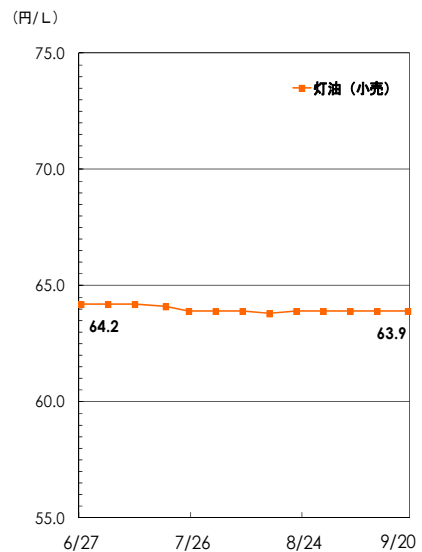
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/11 ~ 9/17	919 ▲ 43 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	692 ▲ 45 ▼	▼ -	
	輸出	"	219 ▲ 48 ▲	▲ -	
	在庫	9/17	1,793 ▲ 8 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/13 ~ 9/16	38.6 ➡ 0.0 ▼	▼ -5.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/13 ~ 9/16	39.0 ▼ -0.2 ▼	▼ -6.8
		(TOCOM/中部)	9/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/20	102.5 ➡ 0.0 ▼	▼ -11.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/11 ~ 9/17	167 ▼ -78 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	99 ▼ -6 ▼	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -47 ▼	▼ -	
	在庫	9/17	2,779 ▲ 68 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/13 ~ 9/16	36.8 ▼ -0.2 ▼	▼ -11.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/13 ~ 9/16	38.8 ▼ -0.3 ▼	▼ -9.1
		(TOCOM/中部)	9/16	38.0 ▼ -0.3 ▼	▼ -10.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/20	63.9 ➡ 0.0 ▼	▼ -16.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

21日のNYMEX市場のWTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)発表の週間在庫統計で、原油在庫が市場予想(340万B増)を上回る620万Bの減少、ガソリン在庫も大きく減少したとの報告で、供給過剰感が後退し、3日連続で値上がりした。この日の米国連邦準備制度理事会(FRB)の利上げ先送り決定は、年内利上げ方針の示唆もあって、原油先物市場への影響は限定的だった。この日から取引の中心限月になった11月限の終値は前日比1.29ドル高の45.34ドル、12月限の終値は前日比1.20ドル高の1バレル45.90ドルだった。

EIAによると9月19日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.3セント値上がりの1ガロン2.225ドル(60.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.0セント値下がりの2.389ドル(64.9円/ℓ)。ガソリンは3週振りの値上がり、軽油は3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月11日～17日に休止したトッパー能力は、36.4万バレル/日と前週に比べて13.5万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は348.0万klと、前週に比べ10.0万kl減少。前年に対しては7.4万klの減少。トッパー稼働率は81.9%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては0.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.7%減、ジェット/26.8%増、灯油/31.8%減、軽油/4.9%増、A重油/3.3%減、C重油/3.6%減。今週のC重油の輸入は4.7万kl(前週比2.5万kl増)。軽油の輸出は21.9万kl(前週比4.8万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格が一進一退の状況の中、小売価格は5週振りで値下がりとなったが、ガソリンの出荷は95.6万kl(対前週1.8%減)と3週連続で前週比で減少、2週振りに前年比で増加となり、2週連続で100万klを割った。

ジェット15.7万kl(対前週6.8%増)、灯油9.9万kl(対前週5.9%減)、軽油69.2万kl(対前週7.0%増)、A重油19.2万kl

(対前週3.5%増)、C重油24.3万kl(対前週7.7%減)。

(単位：千KL)

	今週 (9/11 ~ 9/17)	前週 (9/4 ~ 9/10)	前週比	
ガソリン	956	973	▼ -17	(-2%)
ジェット燃料	157	147	▲ 10	(7%)
灯油	99	105	▼ -6	(-6%)
軽油	692	647	▲ 45	(7%)
A重油	192	185	▲ 7	(4%)
C重油	243	263	▼ -20	(-8%)
合計	2,339	2,320	▲ 19	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月17日時点の在庫はガソリン、灯油、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは170.4万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては3.7万kl多い。

灯油は277.9万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては12.2万kl多い。

軽油は179.3万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては7.8万kl多い。

A重油は73.0万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては2.3万kl少ない。

C重油は208.6万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては19.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (9/17)	前週 (9/10)	前週比	
ガソリン	1,704	1,696	▲ 8	(0%)
ジェット燃料	1,112	1,117	▼ -5	(-0%)
灯油	2,779	2,711	▲ 68	(3%)
軽油	1,793	1,785	▲ 8	(0%)
A重油	730	760	▼ -30	(-4%)
C重油	2,086	2,090	▼ -4	(-0%)
合計	10,204	10,159	▲ 45	(0.4%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月13日から9月16日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは小幅な値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン95~96円台、軽油38円台、灯油36円台でやや弱含みながらほぼ横ばいに推移した。海上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油40~41円台、灯油34~36円台だった。こちらはやや強含みだった。先物価格はガソリン94~95円台、軽油38~40円台、灯油38~39円台でほぼ横ばいである。元売の卸価格はガソリンで1.0円の値下がりから据え置きだった。

EMGマーケティングは9月21日、24日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが小動きとなり卸価格も据え置きが続いたことから、製品スポット市況も、全般的に小幅な値動きで推移した。週間のガソリン販売量は、2週連続で100万klを下回った。

9月第4週(9月22日~9月28日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月13日~9月16日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円、灯油は0.2円の値下がり、軽油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円、軽油は0.7円の値上がり、灯油は1.0円の値下がり、先物価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油が0.3円、軽油が0.2円の値下がりだった。原油コストがほぼ横ばいで推移し、製品スポット価格も小幅な値動きとなった。

9月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (9/13~9/16)	前週 (9/6~9/12)	前週比
スポット価格	レギュラー	42.3	42.5	▼ -0.2
	灯油	36.8	37.0	▼ -0.2
	軽油	38.6	38.6	➡ 0.0

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (9/13~9/16)	前週 (9/6~9/12)	前週比
先物価格	レギュラー	41.3	41.2	▲ 0.1
	灯油	38.8	39.1	▼ -0.3
	軽油	39.0	39.2	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/13~9/16実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▲ 0.1	▼ -0.1
灯油	▼ -0.2	▼ -0.3	▼ -0.3
軽油	➡ 0.0	▼ -0.2	▼ -0.1
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月20日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの122.9円、軽油は前週比横ばいの102.5円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは5週振りの値下がり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は4週連続の横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは10府県、横ばいは14県、値下がりには23都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の118.0円(前週比0.1円高)、次が千葉県と群馬県の119.0円(前週比千葉県横ばい、群馬県0.2円安)だった。最高値は長崎県の132.9円(同1.6

円高)だった。都道府県別で最も値上がりしたのも前週比1.6円高の長崎県(132.9円)、最も値下がりしたのは前週比0.7円安の岩手県(120.8円)だった。

原油コストは横ばいであったが、5週振りでガソリン小売価格は小幅ながら値下がりした。今週の元売会社の卸価格の大半は2週連続で据え置かれたが、原油価格は値下がり、為替レートは横ばいで、原油コストは値下がりとなったことから、次週の小売価格は、小幅な値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
	今週 (9/20)	前週 (9/12)	前週比			
小売価格	レギュラー	122.9	123.0	▼ -0.1	08/8/4	185.1
	灯油	63.9	63.9	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	102.5	102.5	➡ 0.0	08/8/4	167.4

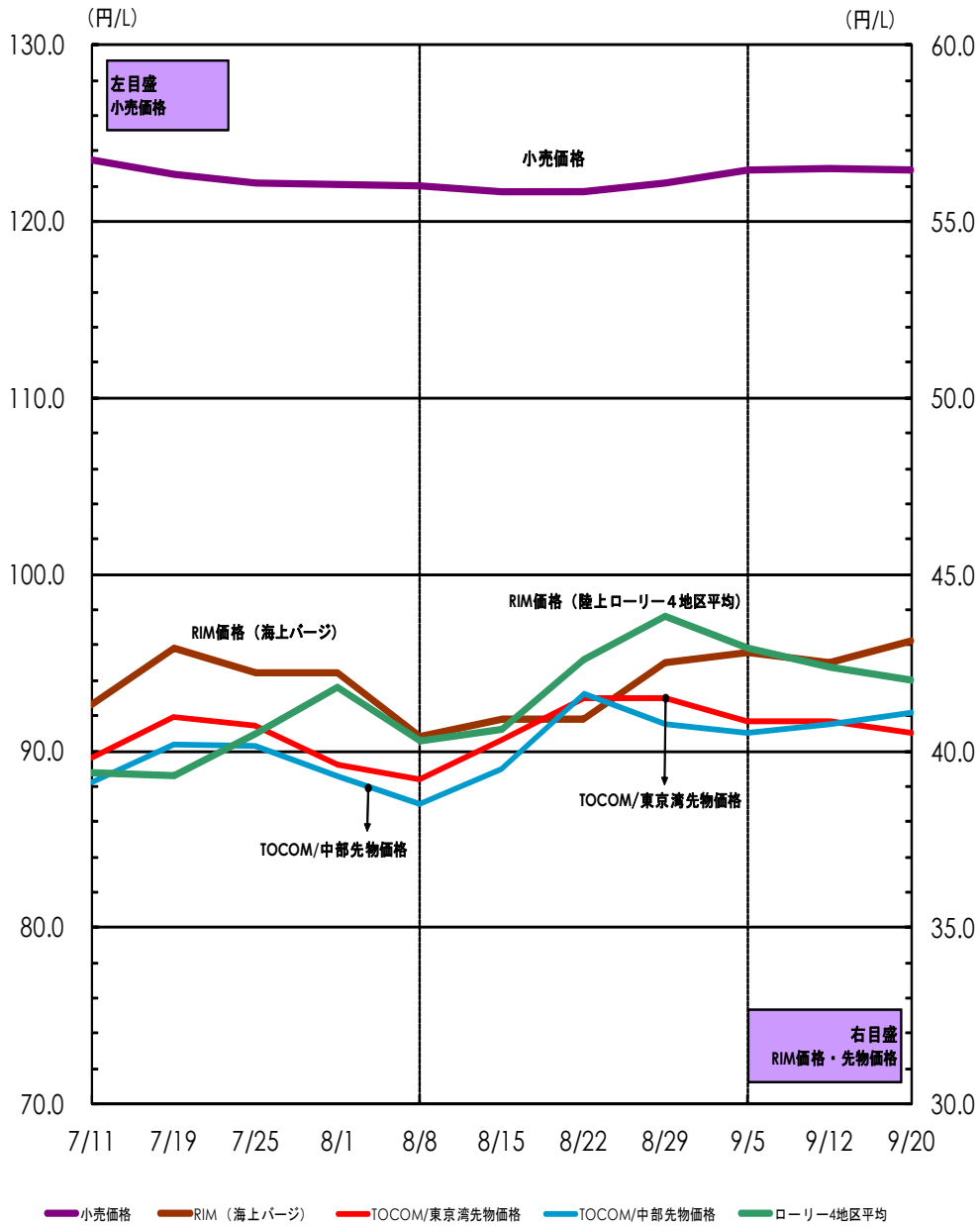
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/7/11 ~ 2016/9/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第25号)の公表は、9/30(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。